

教 師 ノ ー ト

日付	2018年12月30日
単元	クリスマス
テーマ	守られた救い主
タイトル	博士たちとヘロデ王
テキスト	マタイ2:1-23
参照箇所	エレミヤ31:15、ホセア11:1
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 詩篇121:7	
AG 日曜学校教案参照箇所 小学科上級3巻-主題6-課2 小学科下級2巻-主題2-課2 幼稚科1巻-主題2-課5 幼稚科2巻-主題2-課5 幼稚科2巻-主題2-課6	

□導入

例: イエスさまがまだ赤ちゃんの時、イエスさまを礼拝するために遠くからやってくる人たちもいれば、なんとイエスさまを殺そうとして近づいてくる人もいました。

□ポイント1 博士たちは、救い主を礼拝するために、エルサレムへ行きました(1-8節)

イエスの誕生は、ヘロデ王の時代(紀元前37-紀元4年)のことでした(注)。東の国の博士たちが、ユダヤ人の王の誕生を示す星を見たといって、エルサレムにやってきました。そのことが政治的には「ユダヤの王」の地位にあったヘロデに伝わると、彼は恐れ惑いました。なぜなら、ユダヤ人待望の王なるメシヤが現れたら、ヘロデはユダヤ人の手によって、王座から引きずり降ろされることは間違いないと考えたからです。逆に、エルサレムの人々が恐れたのは、ヘロデが狂暴な手段で王座を守ろうとすることを予測したからでしょう。ヘロデは、イエスを探し当てようとし、祭司長と学者を全員集めるとは、相当必死だった証拠です。キリスト誕生の地名をつきとめたヘロデは、今度は誕生の時期(イエスの年齢)を知るために、いつ星が現れたのかを、ひそかに博士たちから聞き出しました。そして、表向きはキリスト誕生を祝うふりをして博士らをだまし、イエスのいる場所を探し当てようしました。ヘロデは、悪賢く・残忍な王でした。

注)ヘロデ大王が紀元前4年に死亡したとき、イエスが2歳だったとすると(16節)、イエスの誕生は紀元前6年ごろということになります。

☞博士: 占星学者のこと。占いのこともしたはずですが、ここに出てくる博士たちは、魔術師のような人ではなく、研究者・賢者のイメージです。(ただし彼らは、外国人であるため、救い主がベツレヘムに生まれるという預言さえ知らなかったようです。)

☞占星術について: この星が実際にどのような星であったかについて、いろいろな説がありますが、詳細は不明です。おそらく、特別な星(もしくはその動き)を観測した博士たちが、その意味を研究しているうちに、ユダヤ人のメシヤと関係があると考えたのでしょう。この星は、博士たちをイエスのところに導きます(9節)。しかし、聖書は占いを認めていません(申命記4:19、18:9-14など)。ですから、この星は、神がみこころによって、博士たちを導くために特別に備えられたものだったのでしょう。

□ポイント2 博士たちは、イエスさまを礼拝し、ささげものをしました(9-12節)

再び星が現れて、博士たちを、イエスのところに導きました。博士たちは、ひれ伏してキリストを拝みました。また、黄金・乳香(植物の樹脂からつくる香油、神にささげる薫香として使う)、没薬(植物の樹脂からつくる香料、医薬・死体の防腐剤として使う)をささげました。これらは王または神にささげるのにふさわしい、高価なものでした。驚くべきことに、外国から来た博士たち(異邦人・聖書をよく知らない)である

にもかかわらず、態度においても献げものにおいても、自分たちにできる最高の礼拝をささげたとと言えます。

博士たちは、ヘロデの悪意を知らなかったので、イエスの居場所が分かったら報告する約束をしていました(8-9節)。しかし、「夢でヘロデのところには戻らなという戒めを受けたので」、ヘロデを避けて、自分の国に帰りました。はっきりとした記載はありませんが、これも神の守りであることは間違いないでしょう。

□ポイント3 神さまは、イエスさまをヘロデ王の殺意の手から守られました(13-23節)

神は御使いを通して、ヘロデがたくらんでいた「キリスト殺害計画」について、明確にヨセフに知らせてくださいました。そして、エジプトに逃れるようにと指示されました。ヨセフとマリヤとイエスは、ヘロデが死ぬまでエジプトに住みました。一方ヘロデは、博士たちがイエスの居所を報告しなかったので、怒り狂って、残酷で卑劣な虐殺を実行します。ベツレヘムとその近辺の2歳以下の男児を無差別に殺してしまったのです。そうすれば、イエスを殺すことができると考えたのですが、イエスは既にエジプトに逃れていました。神がはたらいてくださって、イエスの命は守られたのです。神の救いの計画をだれも止めることはできないのです(エジプトでの隷属もバビロン捕囚があっても、神の救いの計画は進んだのと同じです)。ヘロデのたくらみは、神によって打ち砕かれました。

☞ルカでは、ヨセフ・マリヤ・イエスはベツレヘムからエルサレムに行き、ナザレに戻ったと書かれています(2:39)。しかし、マタイでは、博士たちが訪れたとき、イエスはまだベツレヘムにおり、そこからエジプトに逃れたことになっています。

□結論 神さまは、幼い救い主を危険からお守りになりました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1 あなたを愛し、救ってくださったイエスさまを、博士たちのように、心から礼拝しましょう。宝の箱をあけてささげものをした博士たちのように、あなたの心の箱をあけて、感謝や悲しみや罪の悔い改め、すべてをささげる礼拝者となりましょう。ユダヤの祭司長や学者も、聖書を調べて、ベツレヘムでキリストが生まれたことを確認したはずなのに、だれもイエスさまを礼拝しに行くことをしませんでした。ユダヤ人の方が、イエスさまについての知識や、礼拝に通っている年月は相当長かったのです。それなのに、礼拝しに行ったのは、異邦人である博士たちでした。神さまは、知識や年月ではなく(それも大切ですが)、今この時、精一杯の礼拝をささげることを喜んでくださいます。あなたの心が、最高の礼拝をささげることができますように。

例2 神さまは、イエスさまを恐ろしいヘロデの陰謀から守ってくださいました。それは、あなたを救う計画を実現させるためでした。今日は一年間の最後の日曜日です。今年1年も、不思議な力であなたを事故や病気や心の傷から守ってくださった神さまに、心からの感謝をささげましょう。私たちは、自分の力で生きているように感じてしまいます。しかし、見えないところで、神さまが私たちの人生に働いて、守ってくださっているのです。あなたは、感謝することをいくつ挙げることができますか？どんな小さい出来事も、恵みを数えて、主が良くして下さったことを、何一つ忘れないようにしましょう。